HACHINOHE GAKUIN

CAMPUS八戸学院

vol.61

研究室訪問

豊かな人間性とコミュニケーション能力を身に付けた教員の養成を

子どもの感性を磨く『造形教室』

学校法人光星学院

キャンパスリニューアル

～よみがえる白亜の殿堂～

創立から大学 40 年・短期大学部 50 年を迎えました。大学の学歌にもある『白亜の殿堂』として、これまで多くの学生を見守ってきた学び舎は、経年劣化により色あせていきました。このたび、校舎の補修や塗装等が行われ、その輝きを取り戻しました。

４月には、『白亜の殿堂』が新入生を出迎えます。

光星高校　硬式野球部寮完成間近！

概要（新築部分）

敷 地 面 積：3,019.00 ㎡
合計床面積：1,435.24 ㎡
収 容 人 数：104 名
【主な設備】
大浴場、ランドリー室
ミーティング室、寮室

CONTENTS

3　キャンパスリニューアル～よみがえる白亜の殿堂～

4　行政機関×高等教育機関　三沢市

6　研究室訪問
豊かな人間性とコミュニケーション能力を
身に付けた教員の養成を

8　子どもの感性を磨く『造形教室』

10　学校法人光星学院スポーツ局活動報告
～令和３年度八戸学院スポーツクリニック～

12　八戸学院 TOPICS

14　ステラが行く

15　ステラ・フォーカス

16　同窓生の広場

17　職員ファイル

18　知は愛、愛は知
～地域の学び・実践の学び・いのちの学びを美保野キャンパスで～

CAMPUS
八戸学院

vol.61

表紙
『美保野キャンパスのリニューアル計画』の一環として行われた校舎の補修工事は、足場を組むなど大規模な工事となりました。

建学の精神
「神を敬し、人を愛する」
カトリックの精神に則る道徳教育を施し、高尚なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することをもって目的とする。（寄附行為 第３条）

大　学　初のなでしこリーガー誕生！
～ASハリマアルビオン加入決定～

この度、本学女子サッカー部キャプテンの根本ひかるさん（人間健康学科４年）が、なでしこリーグ１部所属『AS ハリマアルビオン』への加入が決定しました。

「八戸から初のなでしこリーガーということで、八戸学院大学、八戸市代表として、みんなの目標になる、憧れられる存在になれるように、頑張っていきたいと思います。スタメンを勝ち取れるように努力します。」と抱負を述べました。

ASハリマアルビオン加入が決定した
根本ひかるさん

●八戸学院大学
TEL 0178-25-2711
●八戸学院大学短期大学部
TEL 0178-25-4411
●八戸学院地域連携研究センター
TEL 0178-25-2789
●八戸学院図書館
TEL 0178-30-1695
●八戸学院光星高等学校
TEL 0178-33-4151
●八戸学院野辺地西高等学校
TEL 0175-64-4166
●八戸学院幼稚園
TEL 0178-34-5765
●八戸学院聖アンナ幼稚園
TEL 0178-45-3670
●八戸学院第二しののめ幼稚園
TEL 0178-25-2488

https://kosei.hachinohe-u.ac.jp/

行政機関 × 高等教育機関

HACHINOHE GAKUIN

三沢市

市　長　**小檜山 吉紀**

1950年 生まれ
1974年３月 帝京大学経済学部卒業
1992年４月 社会福祉法人若竹会理事長
　　　　　学校法人小桧山学園理事長
2000年３月 三沢市議会議員（２期）
2007年４月 青森県議会議員（３期）
2019年６月～現在 三沢市長

三沢市と八戸学院大学とのつながり

三沢市と八戸学院大学とのつながりは、平成19年に遡ります。当市の最上位計画である「三沢市総合振興計画」について審議する「三沢市総合計画審議会」（現在の三沢市総合開発審議会）」の委員として、八戸大学総合研究所の小渡副所長（当時）にご就任いただきました。それからおよそ15年になりますが、八戸学院大学には現在も引き続き、三沢市総合計画審議会の委員をお引き受けいただき、学識経験者として様々なアドバイスをいただいております。

また、八戸学院大学短期大学部には、特に子ども・子育て分野のアドバイスをいただくため、平成25年から「三沢市子ども・子育て会議」の委員をお願いしております。

このように、当市のまちづくりを考える上で、県南地域の高等教育機関である八戸学院大学及び八戸学院大学短期大学部の役割は大変重要であり、これまでも、その学識経験や専門知識をお借りしてまいりました。

包括連携協力協定の締結

当市では、平成30年３月22日に、八戸学院大学及び八戸学院大学短期大学部との更なる連携強化を図るため、３者による「地方創生に係る包括連携協力協定」を締結いたしました。

連携協力の内容としては、①グローバル教育及び国際交流の推進、②幼児教育から高等教育にわたる教育振興、③健康増進、④医療・福祉の充実、⑤スポーツ振興、⑥創業支援、⑦地域産業の育成支援、⑧移住・定住の促進、⑨地域づくり団体との連携・支援、⑩市職員及び学生の能力向上など、幅広い分野で連携することとしております。

協定に基づく具体的な取り組みとしては、市内の中小企業の更なる振興を図るため、「三沢市中小企業振興会議」の委員をお願いしたほか、グローバル教育及び教育振興の分野では、あおもりグローバルアカデミー「異文化コミュニケーション講座」の講師や、市内小学校での体験型授業であるトップアスリート派遣事業の「タグラグビー教室」の講師を派遣いただいており、どちらの事業も参加者からは大変ご好評をいただいております。

【包括連携協力協定締結】

また当市では、市民一丸となって子どもたちの幸せな成長を後押ししたいとの思いから、市民一人一人の行動指針となる憲章を制定するべく、令和元年度より検討を重ねてきました。憲章内容については、市内小・中・高校生から意見を吸い上げ、２回の有識者会議を経て作成いたしましたが、八戸学院大学短期大学部幼児保育学科の差波准教授からは、幾度も専門的知見によるアドバイスをいただきました。この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。お陰様を持ちまして、令和３年３月31日付けで、「みさわ子どもしあわせ憲章」を制定することができました。現在は、この憲章の周知・浸透を図るべく、プロモーション動画を作成・放送しているところですので、今後の事業展開におきましても引き続きご協力をお願いいたします。

県南地域の高等教育機関として期待すること

八戸学院大学及び八戸学院大学短期大学部の皆様におかれましては、県南地域の高等教育機関として、地域に貢献する人材の育成にとどまらず、人口減少時代とAfterコロナ、そしてデジタル社会の到来を見据えて、持続可能な県南地域の発展のために、行政機関との更なる連携強化により、地域課題の発見と解決支援に取り組んでいただくようお願い申し上げます。

私も引き続き時代の潮流を的確に捉え、新型コロナウイルス感染症の影響により疲弊した地域経済の立て直しと、デジタル化の進展に対応した柔軟な地域社会の構築に努めてまいりますので、三沢市へのより一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

【子どもしあわせ憲章（有識者会議）】

【異文化コミュニケーション講座】

【タグラグビー教室】

【子どもしあわせ憲章】

みさわ子どもしあわせ憲章

三沢市の次代を担う子どもたちは、かけがえのない地域の宝物です。
子どもたちが夢と希望を持ち、健やかに育つことは、市民共通の強い願いです。
子どもたちの元気な声と笑顔が満ちあふれるまちを目指し、子どもたちを市民みんなで育てていくための指針として「みさわ子どもしあわせ憲章」を制定します。

子どものちかい
周りに感謝し、みんなで仲良く生活します
笑顔（ニコニコ）でみんなにあいさつします。
みさわを"ありがとう（Thank you!!）"でいっぱいにします。
かけがえのない命を大切にし、お互いに助け合います。
人にはみんな違いがあり、みんなよいところを持っていることを認め、相手を尊重する心を大切にします。

家庭のちかい
子どもの輝ける未来のために、責任を持って子育てします
明るくふれあいのある家庭をつくります。
子どもの個性を大切にし、たくさんの愛情を注ぎます。
子どもの気持ちや考えを受け止め、よいところを褒めます。

地域のちかい
一人一人が使命感を持ち、地域一丸で子育てをサポートします
子どもたちを見守り、明るいあいさつをかわす地域をつくります。
子どもたちが安心して集い、自分らしさを出せるような居場所をつくります。
保護者だけで抱え込まず、困ったことがあれば相談できる地域のつながりを広げます。

令和３年３月３１日　制定
三沢市長　小檜山吉紀

豊かな人間性とコミュニケーション能力を身に付けた教員の養成を

八戸学院大学
健康医療学部人間健康学科　講師
佐貫　綾乃

筑波大学大学院人間総合科学研究科
体育学専攻修了

2014年4月から八戸学院大学健康医療学部
人間健康学科（旧：人間健康学部）に勤務

研究テーマ　学校教育における身体表現に関する研究、
コンテンポラリーダンスに関する研究
担当科目　ダンス、体育原理、スポーツの科学、
保健体育科教育法B・D、運動学、
キャリアデザインⅡ・Ⅲ、基礎演習、
プレゼンテーション、研究演習Ⅰ～Ⅵ、
健康と運動（短大介護福祉学科）

ダンスの存在意義

「ダンスは体育か、スポーツか、芸術か」という議論をよく耳にします。ダンスには多様なジャンルが存在するので、ダンスと聞いて思い浮かべるイメージもそれぞれ異なるのではないでしょうか。体育科の中では、小学校から中学校2年生まで、「表現運動」・「ダンス」は必修ですし、基本が身体を媒介にした運動であるため、健康やダイエットなどを目的にすればスポーツに分類されるかもしれません。コロナ禍の今では、YouTubeに楽しく気軽に取り組めそうなダンスエクササイズも溢れています。また、表現に必要な身体をつくるための日々のレッスンは、訓練というよりは鍛錬、いやむしろ修行のようだと感じてきたので、アスリートに限りなく近いスポーツ的な思考や感覚もあります。そのような修行を重ねて、私が主に行ってきたバレエやモダンダンス、コンテンポラリーダンスは、物語や感情、表したいテーマや情景を、多様なテクニックや演出、そして個々の持つ身体性を通して表現するものです。エモーショナルなものから無機質なもの、現代アートとの融合や実験的なパフォーマンス、また社会的な問題提起をダンスで訴えかけるものなど様々で、芸術分野として認識されています。このように、ダンスは用途や目的、対象によってカテゴリーを変えることができますし、あえて白黒つけないことでその人なりの関わり方が可能になり、ダンス人口が増えるのではないかと感じます。今やメディアやSNS等で目にしない日がないほど様々な媒体でダンスが溢れていますが、いざ授業を行おうとすると、自分が踊るのは恥ずかしい、難しそう、リズム感がないから…という学生は非常に多いです。高齢者の方と運動をする時も「今日はダンスをしましょう！」と言うと、全体が30cmほど後ろに引く空気を感じます。踊るという行為はそんなに特別なことなのでしょうか。

本来、ダンスは人類が言葉を持つ前から存在していた文化であり、幸福や五穀豊穣を願ったり、葬祭儀礼として死に関する折り合いのつけ方であったりと、人々は祈りの気持ちをダンスによって表現してきました。ダンスを持たない民族は存在しないと言われ、動物と同じく求愛行動やコミュニケーションの一形式でもあり、踊ることは人間の最も根本的な本能に根付いた行為といえます。ダンスの語源は、desire of life.生命の欲求という説もあるほどです。ダンスがなかった時代はなく、生きることのすぐそばに踊ることは存在してきました。原初的な行為であるがゆえか、子どものうちは音楽がかかれば自然に身体が律動しますが、大人になっていくにつれて、そんな人はちょっとおかしな目で見られることさえあります。いきなり踊り出したらそれはびっくりすると思います

学生による高齢者とのスポレク交流会の様子

が…。私自身は4歳からダンスを始めましたが、行き場のない気持ちを踊りで昇華させたり、誰かに伝えたいことを動きや音に乗せて表現することが幼い頃からとても好きで、それが観ている人の心に届いたらと今も創作と表現を続けています。教員や指導者の立場として前に立つときは、ダンスは特別なことではなく誰もができるもの、ということを特に強調しています。

大学における保健体育科の教職課程では「ダンス」は必修科目です。体育科の中では元々明治時代から女子の教養としてダンスは行われてきましたが、現在は先に述べたように必修で男女共習です。男性教員もダンスの指導ができなければいけない時代になりました。体育の教材を占めるスポーツは、ゴール型の学習で勝敗を決める競技が多い中で、ダンスはゴールフリー型の学習、つまり勝敗を決めずに誰もが挑戦し活躍できる可能性を秘めた教材です。とは言え、動画を見せたり、既存のダンスを覚えさせたり、グループになり好きな曲でダンスを創って発表しなさいという授業では、そこに豊かな学びが生まれません。学習指導要領を道標に授業を展開しますが、ダンスの授業は非常に難しいと言われています。学習指導要領には、ダンスは「イメージを捉えた表現や踊りを通した交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動」と記載されています。体育の授業で重要なことは、ダンスのスキルを身に付けることではなく、自己や仲間の考えや表現を認め合い、全身を使って表現し、しなやかな心と身体で他者と交流することだと考えています。そのため教員を目指す学生には、豊かな人間性とコミュニケーション能力を身に付け、ダンスを通して他者と交流する喜びを教えられるような指導者になってほしいということを意識しています。

学生と一緒に体操指導

スポレク交流会に参加してくださった高齢者の皆さんと

学生による高齢者とのスポレク交流会

ゼミでは令和元年度から現在まで「学生による高齢者とのスポレク交流会」を実施しています。本事業は青森県教育庁による「みんなが主役！スポーツで健康づくり事業」の一環として継続して実施しており、スポーツ・健康系の学科で学ぶ大学生が、高齢者に対して継続的にスポーツや運動をする機会を提供し、健康に対する意欲を高めるものです。地域の老人クラブ等において異世代交流会を実施するとともに、交流会終了後も高齢者が継続的に運動に取り組めるよう、リーフレットを作成し、参加者や老人クラブ等に配付しています。

昨年度と今年度はゼミ生を、①筋トレ・脳トレ、②ダンス、③レクリエーションの3グループに分け、運動プログラムの考案から教材の準備、模擬指導を経て、当日は一人ひとりが指導者として高齢者の方の前に立ちました。運動プログラムの考案から非常に苦戦していましたが、運動指導の難しさを痛感し、今後各自に必要な課題が見つかったようでした。今後も、教員としての資質・能力の向上、特に私が最も大切だと思っているコミュニケーション能力の向上に特化させたゼミ活動を展開させていきたいと思います。

学生も緊張していた体操のDVD撮影

南部町「3つの花」体操制作

令和2年度に、南部町から地域住民の健康づくりにつなげるため、南部町「3つの花」体操普及事業の依頼を受けました。南部町の合併10周年を記念して作られた「3つの花」という楽曲に合わせた体操を考案し、南部町独自の体操を普及・実践することで、運動習慣の定着を図ることを目的としています。南部町の保健師さんたちと協力して、令和2年度は体操の考案とDVD製作を行い、令和3年度は普及活動を行いました。

体操の動きづくりは私が行いましたが、DVDを製作するにあたって南部町の幼稚園・保育園・こども園をまわり園児たちに体操指導を行う際は、学生も一緒に体操を行いました。また、DVD撮影時のモデルを学生にお願いしました。見本としてDVDや南部町のホームページに残るため、できるだけ美しく正しい動作になるよう真剣に覚えてくれました。ぜひ、南部町のホームページからご覧になってみてください。

今年度は、南部町の全ての小学校・中学校と、南部町主催の健康講座で指導をさせて頂いたり、完成披露会でトークセッションと体操の実演をしたりと普及活動に励みました。「3つの花」体操が南部町の体操として定着し、子どもから高齢者まで、広い世代の運動習慣の向上および健康の保持・増進に寄与できるよう、今後も継続して支援していきたいと思っています。

子どもの感性を磨く『造形教室』

〈講師〉
八戸学院大学短期大学部　幼児保育学科
准教授　佐貫　巧
准教授　池田拓馬

八戸学院幼稚園

体の中を想像して描きました

体の輪郭に沿ってなぞります

八戸学院聖アンナ幼稚園

マーブリングの説明をしっかり聞いています

思いもよらない模様に驚き想像を膨らませました

八戸学院第二しののめ幼稚園

自由な色で「星」を描きました

紙コップの絵の具をスプーンですくってたらす様子

令和３年度の主な実施内容

★八戸学院幼稚園「分身の術！－自分の体の中を描こう－」

参観日ということで、親子での活動として取り組みました。まず紙の上にポーズをとり、お父さん・お母さんが体の輪郭をなぞります。次に「今日の朝ごはんは何を食べたかな？」「体の中に何があるかな？」など、親子の会話を通してコミュニケーションを取りながら描きました。想像力豊かな形がたくさん現れ、楽しみながらの造形となりました。（佐貫）

★八戸学院聖アンナ幼稚園「りったいマーブリングにちょうせん」

コップの中に「洗濯のり」を入れてその上にマーブリング用のインクを垂らします。紙粘土で作ったボールをその中につけていくと―、水面に浮かんでいた模様がきれいに移りました。（池田）

★八戸学院第二しののめ幼稚園「ドリッピングでほしぞらをえがこう」

卒園記念制作にドリッピングの技法を用いて大きな星空を描きました。ドリッピングとは1940～50年代に活躍したアメリカの画家ジャクソン=ポロックが用いた、直接画面に触れることなく絵の具を垂らし描く絵画技法です。最初は恐る恐る始めた子どもたちも、最後には勢いよく絵の具が落ちていく軌跡を楽しんで描きました。さらにクレヨンで自由に描いた星をコラージュして完成。学校法人光星学院の一番小さな卒業生たち、夜空に輝く無限の星のようにその可能性を大きく広げていっていただきたいです。（池田）

学校法人光星学院スポーツ局活動報告

～令和3年度八戸学院スポーツクリニック～

八戸学院大学強化指定部の選手・監督・コーチの指導のもと、市内の小・中学生を対象としたスポーツクリニックが開催されました。

バスケットボール【小学生(5・6年)・中学生】

ENJOY BASKETBALL!!をテーマに、ボールを使用した身体の使い方や、バスケットボールの楽しさを体験しました。

スピードスケート【小学生(競技者)】

氷上練習の他に陸上での練習方法を学び、競技力向上を図りました。

ラグビー【小学生・中学生・保護者】

ラグビーボールを使用した様々なミニゲームを通じて、チームワーク(助け合い、思いやり)の大切さを学びました。

食育講座【保護者】

ジュニアアスリートの食事と身体について学び、「成長期におけるバランスの取れた食事について」実際に調理を行いました。

硬式野球【小学生】

硬式野球部の学生が打撃フォームや投球フォームを指導。また、広島東洋カープの大道選手と元東北楽天ゴールデンイーグルスの青山氏が参加。プロ野球選手からのアドバイスに耳を傾けました。
最後は、サイン入りバットやボールが当たる抽選会があり、大いに盛り上がりました。

※青山氏(左)、大道選手(右)

女子サッカー【小学生】

ボールを蹴る・止める・運ぶなどの基本的技術の他に、サッカーに必要な動作や考え方を養いました。

陸上競技【小学生・中学生】

運動の基礎となる「走る・跳ぶ・投げる」をトータルに体験するメニューで、体を動かすことの楽しさを学びました。

学校法人光星学院スポーツ局では、この他、大学運動部の学生のためのコンディショニング講座や女子アスリートのための健康相談を実施。今後も、学生・生徒のスポーツの競技水準の向上やスポーツを通した人材育成を目指します。

大　学　令和3年度　学生による消費生活フェスタ

学校等における消費者教育推進事業の一環として、学生による消費生活フェスタ（県民生活文化課）がオンラインで開催され、本学から学友会の学生が活動報告を行いました。

報告では、大学生が普段から利用しているSNSにおける広告等、ネット上での金銭トラブルについて学生への意識調査結果や、学園祭で啓蒙活動の様子を紹介。正しい知識を身に付けトラブルを起こさない、巻き込まれないことが重要と話しました。

短　大　Hyosho- 自分のためにメダルを作ろう！[1/21]

H∞L Gallery（ホールギャラリー）では東方悠平さんを講師に招き「Hyosho- 自分のためにメダルを作ろう！」を開催しました。参加者は池田ゼミ2年生6名。オリンピックの金メダルになぞらえ、学生生活2年間の自分に捧ぐメダルを制作しました。粘土で作った型に特殊な金属を流し込みリボンを通し完成。入学から卒業までコロナ禍を過ごした学生たちでしたが「ピアノを頑張った自分」「たくさんの愛情を注げる保育士になりたい」など前向きな表現が見られ、どんな状況下でも学び、成長を続ける学生たちの大きな希望を感じる機会となりました。

光星高　光星（キラ）リンピック開催！

八戸市長根屋内スケート場「YSアリーナ八戸」と八戸市体育館を会場に、スポーツ大会「光星（キラ）リンピック」が行われました。今回、「青森県外出身の生徒も多く、八戸のスケートの文化を知ってほしい」との意向からアリーナ側に働きかけ、教育関連機関では初の全館貸し切りで実現し、全校生徒850人が球技やｅスポーツ、スケートを楽しみました。コロナ禍で、行事の中止や縮小が強いられていくなか、予想以上の盛り上がりを見せた光星リンピックが、生徒たちにとって勝ち負けだけではない何か大切なものを学ぶきっかけになったようです。

野西高　第８回青森県総合学科研究発表会 ～『野辺地特産葉つきこかぶについて』～

第８回青森県総合学科研究発表会が開催され、校内学習成果発表会で選ばれた、甲田慎之介君（三沢第五中学校出身）・沢口風鈴さん（福地中学校出身）・高橋宏太君（野辺地中出身）のグループが出場し、「野辺地特産葉つきこかぶ」の栽培について発表しました。

グループは、こかぶがなぜ野辺地町の特産なのかに興味を持ち、こかぶの栽培に挑戦しました。実際にこかぶを育てることは難しく、ほとんど収穫できず、うまくいかなかったことを振り返ったり、こかぶの栽培をゼロから見直して再挑戦したことや、栽培失敗の原因を熱心に話し合ったりしたことなどを発表しました。残念ながら入賞に届かなかったものの、発表後、審査員から「試行錯誤しながら取り組む姿勢がよかった」と高く評価されました。

また、会場で参観された皆さんからも「失敗を糧にして努力を続けたのがよかった」「地元の名産を取り上げ、一から栽培に挑戦する姿勢が良かった」の感想がありました。

発表者の甲田君は「1、2年生には、もっと探究を深めてほしい」と期待を述べました。

野西高　「防災教室」～ハザードマップを確認したことがありますか？

八戸学院大学学長特別補佐・講師の井上丹先生をお招きして「災害の被害に遭わない心構え」をテーマに、防災教室が開催されました。

野辺地町の３種類のハザードマップ（津波・洪水・土砂災害）を題材に、陸奥湾で津波が発生した時の避難方法などが紹介され、「ハザードマップを活用して避難経路の確認を普段からしておくこと」「避難先を押さえること」の重要性を強調されました。

災害発生の際は、「まず避難することが大切で、防災の知識を持っていれば助かるし、助けることもできる」と説明されました。その他にも、津波発生時に車で避難することの大変さや大雨や台風の危険度が年々高まっていることなど、災害への備えにつながる内容の防災教室でした。

参加した生徒からは「地域によって災害の規模が違い、ハザードマップも変わるということを改めて実感できた」「地域の地形を把握しておくことがとても大切だとわかりました」などの感想が寄せられ、具体的な防災の心構えを学んだ貴重な機会となりました。

光星高　元気・勇気・笑顔を届けられる演技を目指して

八戸ショッピングセンターラビアで、新成人応援企画として行われたダンスイベントにチアリーディング部が出演しました。一般の方の前で演技を行うのは約１年ぶりでしたが、ノーミスで最後まで決めることができ、満足のいくものとなりました。イベントの最後には、プロ野球・東北楽天ゴールデンイーグルスの公式チアチームである東北ゴールデンエンジェルスの方と一緒に「楽天サンバ」を踊り、盛大に会場を盛り上げることができました。コロナウイルスの影響でたくさんのイベントが中止になる中、このような機会を作っていただきとても嬉しかったです。また、プロの方と一緒にダンスを踊るというとても貴重な経験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。今後も、元気・勇気・笑顔を届けられる演技を目指して練習に励みます。

キャプテン　姥神 花怜

八戸学院３幼稚園
マスコットキャラ
ステラが行く
vol.12

八戸学院第二しののめ幼稚園
自然体験「育てる喜び」を通して培われること
～野菜や花の栽培を通して～

本園の教育目標のひとつに、〝自然体験を通して「育てる喜び」を育む〟というものがあります。市内の中でも、比較的、緑や土に恵まれた環境にある本園ならではのもので、例年、地域や保護者の皆様の力をお借りしながら続けています。先生方も、今年は何の種を撒こうか、どんな苗を植えようか、収穫したものを子どもたちとどんな料理にして食べようかと頭を悩ませつつも楽しく選びます。そして、野菜の種蒔きや苗の植え付けから収穫、収穫した作物を使ったお料理会を子どもたちとともに楽しむのです。

今年は、年少クラスではミニトマト、スナップエンドウ、はつか大根を、年中クラスではビーマンを、年長クラスではゴーヤ、なす、おくらを植えて育てました。キュウリとトマトは園庭の花壇に、大根、枝豆、さつまいも、じゃがいもは園の前の畑に植えました。中には、真夏の暑熱で育たなかったものもありましたが、発芽の観察や水やり、間引きなどの世話をしながら、育っていく野菜を不思議そうに見つめる子どもたちの表情には静かな感動が読み取れます。また、植えた野菜が育つかどうか心配で真夏には土の乾き具合をたしかめたり、寒い日が続くと天候を気にしたり、「生きるもの」へのいたわりや慈しみの気持ちが育っていく様子に、私たち大人も思わず目を細めてしまうのです。

また、保護者の皆様が園庭に植物や花を植えて、子どもたちの目を楽しませてくれます。子どもたちは、「あっ、あそこに黄色い花が咲いているよ」「あれ、何という花なの?」と、すぐに気がついて話題にしてくれます。そして、毎日、「今日は赤いのも咲いてるよ」「つぼみがたくさんあるよ」「しぼんで（しおれて）きちゃったよ」「枯れちゃったね」と、誰かしらが園庭の花の様子を報告してくれるのです。

野菜や植物を育てる過程には、自分を取り巻く世界にはさまざまな命あるものが存在することへの気づきや、命あるものの移り変わりに不思議さを感じる「センス・オブ・ワンダー」の芽ばえがあり、自然に対する畏敬の念や感謝が生まれてきます。それが、やがて自ら自然と関わろうとする態度や意欲へと繋がっていくのだと思います。

ほかにも野菜や植物の栽培は、子どもたちの五感も育ててくれます。乾いた土や湿った土の感触や匂いの違い、ふかふかの土に足がズボッと埋もれる感覚、泥の中に手や足を入れた時の「ねちゃっ」とした気持ち悪さ（のちに病みつきになるのですが…）、収穫の際に恐る恐る抜こうとするけれど、茎や蔓の強さに握る力と抜く力がどんどん強まっていくワクワク感、重そうにぶら下がった実を下から支えてそっともぎ取る優しい感覚、収穫した野菜の持つ香りなど、さまざまな感覚を味わうことが出来ます。今は無自覚であるかもしれませんが、こうした五感をフルに使った子ども時代の体験は忘れることのない記憶として刻まれ、豊かな情動と表現力を形成していく礎となってくれることでしょう。

ステラ・フォーカス

八戸学院第二しののめ幼稚園
ボルダリングに挑戦！

美保野キャンパスにある八戸学院トレーニングセンターへ見学に行ってきました。初めて入る場所にドキドキ、目はあちらこちらに向いて興味津々。その中でも迫力があり子どもたちから「すごい！」と心の声が漏れてしまったのはボルダリングウォールでした。「やってみたい！」との声に対応していただき体験することができました。満３歳児、年少児クラスはウォールにたどり着く前に、ジャンプするとトランポリンのように跳ね返ってくるマットに夢中でした。年中児、年長児は登りやすい所を自分たちで見つけながら挑戦しました。スイスイと登っていく子や、足がクロスになり進めない子がいましたが楽しんで取り組み、最後は全クラス一列になり端から端まで横に進むことができました。動いて、汗をかいて、心もスッキリとした表情の子どもたちでした。

八戸学院幼稚園
乳幼児期の育ちについて

１歳児の親子を対象とした家庭教育学級を開催しました。幼児体育指導士の川口太陽先生を講師に迎え、親子でふれあいを楽しみながら乳幼児期の脳や体の発達のお話を聴きました。

バランスボールを使い大人も子どもも背中をストレッチ。背中やふくらはぎは体の中でもとても大事なポイント、やさしく摩ってあげることで緊張が解れ背骨が柔らかくなって、呼吸が楽になるそうです。ママやパパの手で摩ってもらってうっとりする子どもたち。ママやパパも太陽先生に摩ってもらってケアを受けました。

生きていく上で呼吸は一番の基本。子どもは“思い切り遊ぶ＝呼吸をしっかりとしている”ということだそうです。親子で一緒に楽しめる遊びをたくさん教わり、触れ合ったり笑い合ったりしながら時間を過ごした保護者の皆様は、とても穏やかで満足げな表情でした。

八戸学院聖アンナ幼稚園
「歴史の中心であるキリスト」 ～現在・過去・未来～

「今日は 2022 年 1 月 21 日。どこから数えてそうなの？」という問いかけから始まるこの教具は、コスミックの世界に興味を持ち始める年長児にピッタリ。イエス様の誕生が紀元前・西暦の境目、そこからビーズ（1 個が 1 年を表すビーズ 100 個の塊）を現在に至るまで並べながら歴史の長さと数え方（世紀）を体験。幼稚園に掲示してある大きな 100 年カレンダーがわずかビーズ 1 個分！毎朝一つずつシールを貼っている出席カード 1 枚分が 1 か月！ 12 枚長～く繋げたら何と 1 年！それがみんなの歴史であることにハッとした様子の子どもたち。最後に 100 年カレンダーでワクワクしながらそれぞれの未来に思いを馳せました。

同窓生の広場

有限会社工藤板金工業
専務取締役
市川　恵子 氏
(旧姓：工藤)

光星学院高等学校
(現八戸学院光星高等学校)
普通科　昭和55年3月卒

《スケートから学ぶ》

3年間スピードスケート部に所属し、夏はトレーニングの一環としてコーチ宅からランニングで通学、冬のシーズンは各種大会、インターハイ、国体出場など部活動に励んだ高校時代でした。部活動漬けの毎日でしたが、級友と過ごす高校生活は楽しく、自分を見失いそうな時には当時担任であった、現理事長の法官先生が厳しく、そして愛情をもって導いてくださいました。中京短期大学に進学し更にスケート競技を続け、卒業後は光星学院に勤務し、高校スピードスケート部に関わらせていただきました。今でも多くの先輩や後輩とご縁をいただき、様々な立場から学んだことは私の人生の宝となっています。

《建築という仕事》

結婚、出産を機に職業人として学びの多かった光星学院を退職し、両親の力になりたいと思い実家である㈲工藤板金工業に入社しました。

高校、短大の専門は建築ではなかったのですが、一つの建物を大勢の方々と造り上げていく建築という仕事に夢中になり建築士の資格を取得し、今では現場監理、会社経営をして日々を過ごしています。常に心掛けていることは、安全かつ快適な職場、現場環境創りです。社員、仲間の力を最大限発揮する為に、朝の挨拶から始まり、常にコミュニケーションを欠かさず、思いやり、感謝の気持ちを忘れないようにしています。また時代の変化に対応できるよう情報収集は欠かせません。

今回ご縁をいただき、大学40年という節目に、学歌に歌われている「白亜の殿堂」を蘇らせるというプロジェクトに携わることができ、改めて建築業の良さを実感し四季を肌で感じる毎日です。学生、教職員の皆様にはご不便をおかけしておりますが、温かいお言葉や励ましのお言葉をかけていただき、工事関係の職人さん方は元気に最高の技術で施工しております。

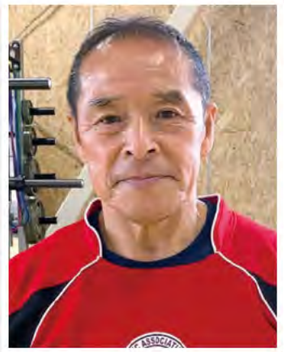
建物がビルドアップしていく度に、皆様に喜んでいただける事が最大の活力で、「ものづくり」の達成感、充実感、やりがいを改めて感じています。利用する学生、教職員、地域の皆様が心豊かに学び、快適な環境で過ごすことが出来る「白亜の殿堂」を一番楽しみに待っているのは施工する私達かもしれません。

美保野キャンパス校舎修繕に携わった職人の皆さんと

《後輩へのメッセージ》

高校時代挫けそうになった時、恩師である法官先生に言われた言葉「自分を大切にしなさい」。この言葉で前に進むことが出来ました。何事も諦めずにやり続けることが大切だと思います。仕事は楽しく、遊びは真剣に！　楽しく真剣にやり続ける・・・その先には多くのご縁と気付きで「生きる喜び」が得られると思っています。

職員ファイル



上沢久志

八戸学院トレーニングセンター
管理責任者

平成24年4月から八戸学院の高校・幼稚園のスクールバス運転士として勤務。
令和3年12月に美保野キャンパスに完成した八戸学院トレーニングセンターの管理責任者となる。

八戸学院トレーニングセンターには多機能のトレーニング器具やボルダリングウォール等が整備され、各運動部の競技力向上や健康増進等に活用されている。

趣味は野菜作り

3年前からはじめた野菜作り。約700坪の畑に10種類の野菜を無農薬で栽培。

1993年

自分の生き方を変えたボディービル。現役引退後はトレーニングジムを経営し、ボディービルを目指す人をサポートしてきた。

1998年

25歳から始めたボディービル競技。国内最高峰の大会で4連覇し、さらに世界大会で優勝を果たした。

知は愛、愛は知

～地域の学び・実践の学び・いのちの学びを美保野キャンパスで～

八戸学院大学短期大学部
学長　杉山 幸子

全国の短期大学の現状

近年、女子の四年制大学進学率は上昇を続けており、２０２１年春の統計では、全国平均で51・３％、最も高い東京では74・１％に上ります。この傾向は特に都市部とその近郊において顕著であり、そうした地域で短期大学の四大化が進んだ結果、全国的に見ると短期大学の数は大幅に減少しています。

一方、東北地方では大学進学率が相対的に低いことから、短期大学の需要は依然として高いと考えられてきました。とはいえ、先のデータによると、青森県の女子の大学進学率は東北地方では宮城県に次ぐ40・２％に上っており、これを踏まえると、本学も四大化に向けての議論を避けることはできない時期に来ているのかもしれません。

幼児保育学科－アートイズ

四大化は質の向上につながるか

ここで重要なのは、本学の使命は何かということです。本学は現在、幼児保育学科と介護福祉学科の２学科を有し、２年間という限られた期間で質の高い教育を行い、優れた保育者（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）と介護福祉士を地域社会に送り出すことを目指しています。それを本学の使命とわきまえるならば、四年制にすることは、その教育の質をさらに高めることにならなくてはなりません。

期間が倍になれば、教育の内容が深化し、質が向上するのは当然と思われますが、実は必ずしもそうではないことが、保育者養成校を対象とした研究で明らかにされています。

両角・長島（２０１９）によると、学校種の相違が教育内容に与える影響は、四大ほど研究・公務員試験対策充実、短大ほど実践力重視、保育専門カリキュラムの充実で、四大化は保育関係の科目の充実につながっていません。大学による違いはありますが、短大より多い２年分は小学校教諭など別の資格・免許の取得や教養科目、ゼミナール、卒業研究に充てられることが多いようです。

また、四大化した大学では新たに採用した教員と保育者養成への熱意を共有することが困難であり、教員間の協力体制の構築に課題があるとも指摘されています。一方で研究やカリキュラム外の取り組みの成果として、「現場を引っ張る力」が育つという自己評価もなされています。

このように、四大化は単に短大の教育の質を上げることではなく、大学としてのアイデンティティの再構築を迫られる事態であると言えるでしょう。そのときには大学として何を目指すのか、どんな学生を育てたいのかを真剣に議論し、カリキュラムを構築しなくてはなりません。

介護福祉学科－介護予防運動教室

地域における学び

ここからは二年制・四年制に関わらず、本学の教育の質の向上のためにどのような方向性が考えられるかを、理想と希望を込めて考察したいと思います。

ひとつは、地域とのつながり、地域における学びをさらに深めることです。現在、八戸産学官連携推進会議において、「八戸地域学」創設の準備が進められています。これはさまざまな分野の講師を招いて八戸の歴史・産業・文化についての講義を行い、市内の高等教育機関（八戸学院大学、八戸工業大学、八戸工業高等専門学校および本学）で共有しようとするもので、市民への提供も検討されています。

本学の学生はほとんどが青森県南および岩手県北地域の出身であり、地元就職率が高いという特徴があります。おそらく幼児保育や介護福祉を志すメンタリティと、郷土を愛する心には連続性があるのでしょう。しかし、小学校から高校までの教育の中で、地域について深く学ぶ機会は多くありません。

広く言われるように、知は愛、愛は知です。地域について学ぶことは地域を愛する心を育み、そこに住み働く人だけでなく、離れて暮らす人にとっても生きる支えとなります。そのために、講義だけでなく、行事やボランティアなどの地域をフィールドとした実践的な活動もカリキュラムに組み入れたいと考えています。

幼児保育学科 -1Park（わんぱーく）

日常的な実践

専門教育の充実のためにぜひ実現したいのが、実践の場とのつながりの強化です。幼児保育でも介護福祉でも、2年間の学びは理論と実践の融合もしくは循環によって展開します。そのため、どちらの学科でも実習が教育の大きな部分を占めており、実習先との密接な連携は教学上の重要な柱となっています。

この現状を踏まえてさらに望むのが、学生が日常的に子どもや高齢者と触れあえる場の創造です。少子高齢化によって、若者が身近に子どもや高齢者と触れあえる機会は大きく減少しています。本学には比較的その機会に恵まれて育った学生が多いですが、それでも昨今は「子どもとあまり遊んだことがない」「おばあさん、おじいさんとはたまにしか会わない」という学生が少なくありません。そうした学生も実習を重ねて大きく成長していきますが、彼らの経験の少なさを補うには、実習以前に日常的な触れ合いの場が必要だと感じています。むろん、それによって授業で学んだ知識や技術をすぐに実践できるようになれば、その教育効果は計り知れないでしょう。

介護福祉学科－実習風景

いのちを繋ぐ学びの創造

さらに理想を述べれば、それが子どもと高齢者が交流する場であって欲しいという願いがあります。子どもは時間的展望の発達により、4歳頃に命の有限性に気づきますが、それはしばしば「老い」との出会いを契機としています。一方で、E・H・エリクソンによる老年期の発達課題「人生の統合」は、世代継承と切り離してとらえることはできません。

「日本看取り士会」会長の柴田久美子氏は、「死はギフト」であり、「子や孫に安心して命のバトンを渡せる社会にしたい」と訴えますが（２０２１年6月26日付朝日新聞「フロントランナー」）、この「バトン」は決して血のつながった家族だけに渡されるものではないでしょう。たとえ家族でなくとも、子どもと高齢者が日常的に交流しながら時を過ごす場があり、そこに幼保と介護の学生が入っていのちを繋ぐ学びに携わることができたら、どんなに素晴らしいでしょうか。

このキャンパスにおいてそうした学びの場を創造すること。それが私の「夢」です。

参考文献
両角亜希子・長島万里子（２０１９）：保育者養成校の教育内容に関する実証的研究―四大化は質の高度化につながっているのか―．大学経営政策研究，9，1―18．

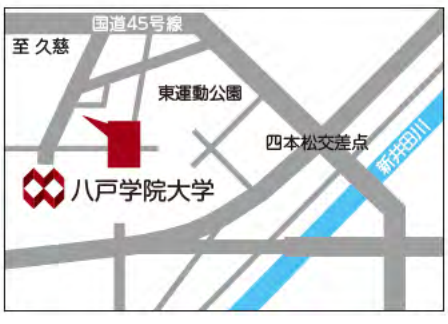
八戸学院大学８号館
パウダールーム

社会人として身だしなみを整えることは基本的なマナーですが、患者さんやそのご家族と接する機会の多い看護師は、身だしなみを整えることが重要です。

看護学科の学生が使用する八戸学院大学８号館にはパウダールーム（女性用化粧室）があり、講義前に実習着に着替えるとパウダールームで髪型や服装など身だしなみを整え、講義に向かいます。

それぞれが思い描く理想の看護師像を目指して…

八戸学院大学



HACHINOHE GAKUIN | CAMPUS八戸学院 vol.61 | 【発行日】令和４年２月28日【発行】学校法人光星学院 〒031-8544青森県八戸市美保野13-98 TEL.0178-30-1411（代表） FAX.0178-30-1422